



第 61 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

天守台編集委員会

TEL (0761) 21-6330

同窓生の皆様、この度、校長として赴任しました垣地です。本校には3年ぶり三度目の赴任となります。よろしくお願ひいたします。4月に赴任してすぐ、登り口が整備された天守台に久しぶりに登りました。天守台上から白山の雄姿を眺め、見降るせばソメイヨシノが青雲の小径沿いに綺麗に咲き乱れており、素晴らしい気分になることができました。120周年記念事業として、青春の想いが息づく場所、桜並木や天守台の再生・整備にご尽力いただいた同窓生の皆様に、心より感謝

いたしました。在校生が身近で目に触れることができるようにと、校舎内に展示された人間国宝を始めとした同窓生の数々の芸術作品。さらに、旧制中学以来の資料が展示・整備された旧木造校舎「記念館」。学校は宝庫といっても過言ではありません。歴史と伝統を引き継いでいくのは、いうまでもなく在校生です。着任後の新任式の中で本校の歴史と伝統、様々な功績を肌で感じ、気持ち新たに高校生活を送るように、在校生に語りかけました。

予見困難な時代にあつて、教育を取り

り、ICTの活用においても、これまでの対面での指導と組み合わせ、より効果的な指導となるように努めていきます。また、昭和43年度に併置された理数科は、特色ある教育活動を展開し、50年が経過しました。昨年度末には国の事業であるSSHスーパーサイエンスハイスクール事業の4期目「開発型・実践型」の指定校に内定し、正答のない問題に粘り強く取り組み、解決することができる探究力を持った人材の育成を研究開発課題とし、今年度、16年目がスタートしました。理数科から始まった課題研究は、平成25年度からは人文科学コースで、平成29年度からは2年生全体に広げ、「探究力」の育成に取り組んできました。そして、今年度からは、すべての教科・科目で「探究力」育成に努めていきます。



### 『ご挨拶』

石川県立小松高等学校

校長 垣地 正樹



申し上げます。

旧制小松中学の歴史は三先生の歴史とも見られるといわれた島田・大島・中村先生との銅像がある中庭には、卒業記念樹とともにいくつかの顕彰碑や記念碑が建ち並んでいます。世界的劇作家北村喜八先生の詩碑。雪の博士中谷宇吉郎先生や文化勲章受章者で医学博士の勝木保次先生の顕彰碑。野球部の甲子園大会出場や男子バレーボール部の春高バレー全国大会出場記念碑など、文武両道を校是とする本校同窓生の素晴らしい功績です。ま

巻く環境も大きく変化しています。「高大接続改革」のもと、大学入試においては、多面的・総合的な評価に変わり、思考力や判断力がより一層問われる。「大学入学共通テスト」が昨年度より実施されています。次年度入学生からは、「新学習指導要領」での授業が段階的に始まります。また、「コロナ禍」にあつてGIGAスクール構想実現が前倒しでスタートしました。本校では、新学力の育成に向けた準備を平成26年頃からスタートさせ、AL型の生徒の能動的な学びの授業改善に努めてお

現在人類が直面している新型コロナウイルスもそうですが、社会では想定外の問題や正答のない問題に対処する力が必要になります。生徒には、正確な情報と知識をベースに想像力を働かせ、自分ならどう答えるか、自分なりの判断力と考えをもち、あくなき探究心で未来を切り開いてほしいと願っています。

「理想を高く輝かし  
いざや作らん明るき未来」

生徒たちがこつとした気概をもち、未来に向かって前進していきけるよう、微力ですが努力する所存です。同窓生の皆様には、今後とも変わらぬご支援を母校に賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



東証一部小松マテリアル(株)

中山 賢一(高12回)

代表取締役会長を訪問

## “人を創る”母校たれ — 恩師に感謝して —

令和3年6月、小松マテリアル(株)の中山賢一代表取締役会長(高校12回)を同期の野田洋子さん、前口百合子さんと訪問しました。案内された本社3階には、同社のセラミック基盤材料“グリーンビズ”による屋上緑化が施され、そこには“セダム”が豊かに足元を覆うように植え込まれていました。また、世界的建築家隈研吾氏が設計



した炭素繊維ロッドによる耐震補強がなされた旧本社建物が視界に入り、その布をまとったような姿と東の山並にそびえ立つ「白山」とが共鳴しあう、人や環境を大切にしてきた中山さんの想いが感じられました。

### 高校時代の思い出

中山さんは、家庭的な雰囲気漂う現在の小松市立国府中学校から小松高校へと進学し、その都会的な印象にはなじめなかったといえます。中学校時代から続けてきた野球部では、野球理論の研究に没頭し、ひとり運動場で夜遅くまで練習に励んだことも多々あったそうです。

そんな時、生徒指導の中山隆先生が手を差し伸べてくれました。「教えられるのを待つな、自ら学べ」を教えられた生涯の恩師との出会いでした。

### 恩師中山隆先生との出会い

先生との巡り会いにより、その後の人生は大きく変わりました。先生は「学校では教師は親の代わりをするものだ」との信念をお持ちで、「野球をしないならことんやれ」と背中を押してくれました。そして、大学進学時には学力や家庭の経済力まで考えて進路指導をした上で、先輩の入居する大学の寮までも紹介してくださいました。先生は95歳の生涯を閉じられるまでの間、中山さんを見守り続けてくださったそう、平成19年には中山隆先

生から「これで絶筆なり」のお手紙が贈られました。そこには「逆境は人を賢くする」としたためられています。先生からずっと言われ続けてきた言葉だそうです。今でも、この言葉は大切に飾られおり、45歳で社長に就任して以来、「心の杖」となってきたと語られています。

### 大学生活と

#### 小松精練株への入社

中山さんは同志社大学経済学部に入學し、寝食を共にする寮生活が始まりました。先輩たちからは世事や日本の経済を自然と学ぶようになり、大学3年の時には日本の上場企業を全てそらんじられるほどにまでなっています。時には先輩方とレベルの高い議論を戦わせるなど、貴重な大学4年間を経験されたそうです。

卒業後に縁あって入社したのは、当時、小松高校の近傍にあった小松マテリアルの前身の小松精練でした。当時の小松精練は排水処理技術が整っておらず高校時代、野球ボールを汚水の中で拾うことも度々でした。そのため、「あの小松精練に入社したのか」と笑われたそうです。当時はまだ環境問題への関心が低い時代でしたが、高校時代に目にした染色排水のイメージはそのままに残っており、水を汚さず、環境を守る会社になりたいと強く思ったそうです。

### グリーンビズの誕生

染色加工部門は大量の水が必要で、現在本社がおかれている能美市で豊富な水を得られると分かり、工場を小松市から移転しました。現在の工場からの排水は、排水処理場で浄化され日本海へ戻されています。処理場から発生する汚泥は粘土や珪藻土と混ぜて焼き固められ、さまざまな大きさのセラミック基盤材料の「グリーンビズ」となって再活用されます。グリーンビズは保水力が強く、40日もの間は水がなくても植物は枯れずに生育します。このグリーンビズは、新国立競技場など日本の各地で採用されており、小松高校のグラウンドや、隈研吾氏の設計により、小松市内に建設された「セラボクタン」にも採用されています。

### 世界を代表する建築家

#### 「隈研吾氏」とともに

#### — 炭素繊維ロッド —

小松マテリアルでは、木材をはじめとする天然の材料と親和性の高い炭素繊維ロッドの開発を進めています。日本の鉱物資源の輸入依存度が高い中、炭素繊維は国産の材料で、鉄の4分の1の軽さ、強度は10倍であり、錆びることなく耐久力は抜群です。

小松マテリアルの炭素繊維ロッド開発に隈研吾氏が携わったことがきっかけとなり今や、炭素繊維ロッドは二条城、善光寺、富岡製糸場、京都御所、東寺五重塔などの重要文化財をふく

む各所の耐震補強に使用されている  
そうです。

“人を創る”

母校であってほしい

中山さんのご友人である那谷寺の  
木崎馨山住職(高校12回)は「自然の  
声なき声を訊け」と訴えられていま  
す。木崎住職の言葉に感銘を受け、環  
境破壊から地球を守り、人間を守り  
たいとの思いを強くしました。

また、中山さんは卒業生の立場か  
ら、「小松高校は単なる進学校にとど  
まることなく、人を創る母校であって  
ほしい」との想いを述べられています。  
勉学にも増して、人間の育成や成長の  
価値を教えられたという恩師中山隆  
先生から受けた影響は大きく、一心に  
勉強ばかりに集中し順位至上の校風  
ではなく、あなたがかみがあり、人間を  
育成できる進学校であってほしいと  
お考えです。

おわりに

美しい白山と日本海の両方を臨み、  
感性を磨くことのできる小松マテ  
ーしがこの地にあり続けるのは、社員や  
地域の「人々」あってこそと、中山さん  
は話されています。

今年、傘寿を迎えられる中山会長  
の歯が全部生え揃っており、驚きを覚  
えたとの逸話を本紙の最後に追記さ  
せていただきます。

山口和博(高34回)

震える線

九谷焼陶人

武腰

潤(高18回)



最近武腰潤の作品に元気な「鶴」が  
活発に動いている。特に2006年度  
日本陶磁協会賞を受賞した際の「鶴  
の風景」香りのオブジェの鶴は真横  
から捉えたその堂々たる姿が印象的  
である。この鶴の真後を振り返る姿  
態は、奈良時代盛期の鳳凰や鸚鵡文  
に代表される輝かしい歴史を背景に  
している。

さらにそれをいわば線的デフォル  
メとも言つべき、作者独自の感覚の  
フィルターを通して現代の模様にな  
らせているのである。

それは古九谷や日本の模様のごく  
一般的な写実を基礎におく輪郭線に  
よって作り出されたものではなく、何  
か厚く堅い型紙を切り抜く際に生ず  
る直線の連続に似た輪郭線を持つて  
いるのである。

この様式的な細い配慮が作者なら  
ではの現代に通ずる新しい表現を生  
み出している。金子賢治(東京国立近  
代美術館工芸課長)

この文章は10数年前の私の池袋西  
武百貨店での個展に際しての論評の  
一部を抜粋したものである。

振り返ると小松高3年の年の瀬も  
迫った或る日の夕、自宅に帰ると父  
親と古文の担任の吉田三郎先生とが  
酒を酌み交していた。三郎先生は篆刻  
を趣味としており、父はそれを何度か

所望したのが始まりらしく幾度かこの  
光景に出合っていたので軽く会釈し  
て二階の自室に上がった。小一時間程  
して階下に呼ばれて行くとお酒で機  
嫌良さげな二人がやおら私の進路に  
ついての説得話が始まった。体育系に進  
みたい私を、なんとか金沢美大に志望  
変更するよう作戦を練っていた様で  
あった。江戸末から続く九谷焼師の  
家系に生まれた私ではあったがその  
家業を継ぐ程の思いは無くむしる避  
けて通りたい心境であった。

閑話休題

「何と言つ生命感だ！」窯の中から  
出てきたそれは私の想像を遥に越え  
た焼物、彼等の描いた九谷焼の絵皿で  
あった。

その彼等とは、私が金沢美大を卒  
業後奉職した石川身体障害者職業訓  
練校の中の陶磁器図案科の訓練生達  
のことである。一年の修業を終え卒業  
間近い最終作品群の窯出し中の光景  
である。私は同じ窯の中に有る自作  
を遠目に見、それをその前に晒すこと  
躊躇せずにはいられなかった。肩を窄  
めたまま窯の中に縮こまっていた。  
「何故だ!」事故や災害で利き腕を無  
くしたり思うままにならない障害を  
抱えた中、1年であれだけのものが描  
けている。しかも線が震えているのに  
堂々としている。一方、私の作はハン  
デイがなく素早く描けているのに全  
く表情が無い。

両者のこの差を理解するには永年  
を要することになった。

筆を把る気力を失うような挫折感

を引きずったままの訓練校次年度  
末、職を辞し自分探しのつもりの旅に  
出た。鹿児島そして東京1972年  
当時世情は安保真只中の東京には大  
学時代の友人達も多く、集う場所や  
時には不自由しなかった。しかし夜に  
世相を語る彼等の姿と早期仕事に出  
掛ける姿を見送りながら、勉強と称  
しただ画廊巡りを繰り返すだけの自  
分が情けなかった。2ヶ月も過ぎただ  
ろうか、宛なく上野公園のベンチに座  
る私を誘うように、和洋折衷の趣の  
どっしりした建造物、東京国立博物  
館が目にと留まった。その広大な中に入  
ると古陶磁群が乱立していた。企画  
展の様相ではあるが随分ご汚い黴臭  
い展示だなあと思つて進んだ矢先、其  
処にスポットライトが当たると如く一  
際聳える絵皿があった。

私が初めて観、体感する古九谷の  
大皿であった。

それはいとも容易く前に私の背中  
を押してくれた。「早く戻って家業を  
継げ!」と体の中で叫んでいた。私の  
道標が決まった時である。

50年前のことである。

以来沢山の先人、作に出会ってき  
たが、訓練生の線そして古九谷の線、  
その後私は彫金の線に美を見、彫金  
家の帖佐美行氏の薫陶を15年間授かる  
こととなる。氏の高い美意識は現在の  
私の作の基幹を為している。

決して速く引けない鑿と槌の線に  
憧憬を持つのは、あの震える線に出  
合ったからであらうか。

永年の宿題である。



### 父の置き土産

金戸 紀美子(高5回)



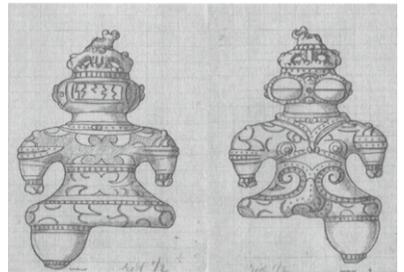
『幻の父を追って』という本が届きました。著者は中谷治宇二郎の長女の法安桂子さんです。中谷治宇二郎というのは、雪の博士として有名な中谷宇吉郎の弟です。

治宇二郎は 兄と同じく小松中学より帝大へと進み、日本の考古学の道を拓いた人で、地元片山津の弥生遺跡や東北の縄文遺跡を発掘調査しています。

その後フランスに留学した治宇二郎は、パリを活動の拠点とし、各地の遺跡の発掘調査の沢山の論文を残していますが、結核のため惜しまれながら三十四歳で亡くなりました。当時結核は不治の病で昨今のコロナ禍のように面会も出来ず、娘達にはまさに幻の父でした。父を知らない彼女でしたが、海外をはじめ四方八方手をつくして父の足跡を辿り、九十三歳にして漸く上梓に至ったとあります。ただ、治宇二郎の上京以前の資料が乏しく、何でも教えて欲しいとの事でした。

\*

小松中学から小松高校に続く、地歴クラブを永年に亘って指導した上野与一。釣り好きの上野少年は、梯川の三角州に散らばっている土器や、あちこちの耕地整理で掘り上げられたまま放置されている石ころのようなものに不思議を



治宇二郎直筆の資料カードと縄文土器・土偶 東京大学総合研究博物館蔵

抱きました。学校の先生に聞いても分かりません。書店や図書館を渡りあっても、中学生を納得させてくれる本は一冊も無かった時代です。困っていた折、大聖寺の伯父に、湯布院で療養している学者の中谷治宇二郎の元へ、掘り上げたものを送るように教えられました。

上野与一の回顧録によりまずと、先生にはいぢどもお目にかかる機会がなかった。でも、直接に考古学の第一歩を教えて戴き、数少ない弟子の一人だと自負している。とあります。

小松中学二年だった上野少年が、拾い集めた大きい丸や四角の石は鉄道貨物便、小さいものは郵便小包にして、療養中の治宇二郎へ届けました。その度に、治宇二郎は一つひとつ由来を書き付けて教えています。こうして教えを受けることと三十数回、すべて手紙のやりとりでしたが、中谷治宇二郎より、学校の先生も及ばぬ考古学の知識を教わる事が出来た上野少年でした。

そのお陰で早々と、小松式土器が学会で認められることに繋がり、上野与一が指導した小松高校地歴部や市社会教育関係の方々により、小松が誇るオンドルやエジリ古墳そして八日市地方遺跡と、次々に加賀地方の弥生時代が甦ってきたのでした。

\*

ところで、特記したいのは、治宇二郎が文学青年であったことです。『幻の父を追って』には治宇二郎の遺稿は勿論、宇吉郎や与一の回想もあります。が、中学五年(今の高校二年)の時自分達の同人誌『楚音』に掲載した小説へ独創者の喜びが、芥川龍之介の賞賛を浴びていることです。それが掲載されている『楚音二号』が多くの人達の努力で漸く発見され、巻末に載せることが出来ました。平家物語の授業にヒントを得た作品です。

一方絵画にも優れ、写真機の少なかつた時代、沢山のスケッチを遺しています。特に出土品の丁寧かつ正確な描写に学者の視線を感じます。

治宇二郎は小松中学十七回生、二級上の十五回には北村喜八、兄の宇吉郎がおり、文学的気風の高い時期だったようです。

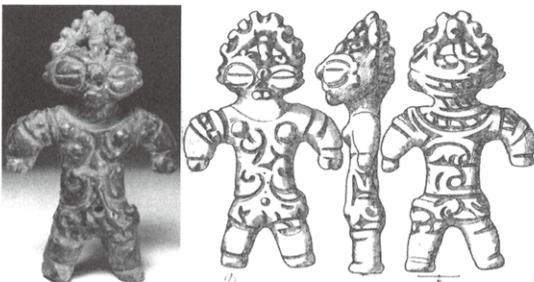
\*

昭和二十二年、中谷宇吉郎の小松中学での講演の折、私共の父が従兄弟で『楚音』同人の小塚晃平と共に校長室で宇吉郎に会っており、中学五年の夫も同

席しました由。後日、「為金戸雅兄」とある一冊が贈られて来たと聞きました。事業家の父と一流学者を生んだ中谷家との関係を語ることなく、遺曆を前に父は急逝しました。

届いた『幻の父を追って』は父が繋いでくれたご縁と思い、当地の関係の方々に届ける手伝いをしています。埋蔵文化財関係や図書館をはじめ出身の小松高校、上野与一氏のご親族、文芸関係、その他いろんな方々と繋がり、コロナ自粛の中、元気を戴きました。同窓会文庫にも収めました。

父は小学校卒業後、家業に専念しておりましたが、戦争の波に翻弄され、何も遺すことの出来ぬまま亡くなってしまいました。生涯、人の縁を大切にしていた父の、私共への「置き土産」だったかと気づきました。(敬称略)



### 同窓会支援制度・小松同窓会青雲賞の創設理由

小松同窓会会長 和田 学(高33回)

同窓生の皆様には日頃より小松同窓会運営にあたり多大なるご尽力を賜り誠に有り難く感謝申し上げます。

早いもので、令和元年7月の小松同窓会総会にて会長に選任され、1期目の2年間で、現在の2期目に入りました。

その間、世界的に流行してあります新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、令和2年度、3年度総会については常任理事会の決議を以って代替、令和3年新年会についても中止ということで、誠に残念なこととなっております。一刻も早く正常な日常に戻りますことを祈っております。

現在、大きな行事や多額の出費を伴う事業はございませんが、同窓会活動を活性化させる施策を推進しており、そのことについて触れさせて頂きたいと思っております。

近隣の高校同窓会の周年式典に出席させて頂き、一様に同窓会関係者が悩んでおりますのは、若年層の同窓会活動への関心の低下と参加率の低下であります。

小松同窓会に関しては、創立120周年の募金総額が目標を大きく上回る金額となるなど、県下トップクラスの活動量を誇る同窓会と思っておりますが、今後の更なる発展に向けて若年層の参加意識の向上は大変重要と考えます。

まず、各校同窓会が深刻に悩んでいる若年層の関心の低下と参加率の低下に對しては、高校卒業時にイコール小松同窓会に入会し同窓生の一員となることを意識して頂くこと、そしてお世話頂く新任常任理事に自覚を持ってもらうよう為し、卒業式の前に「小松同窓会入会式」と

「常任理事任命式」を行なうこととし、併せて同窓会と現役小松高校生の絆を創り上げることが目指して、文武両道に秀いで学校生活全般にわたる、他の模範となった4名の生徒さんに本年「第1回小松同窓会青雲賞」を贈らせて頂きました。

現役小松高校生にとって、普段身近に感じてもらう機会が余りない同窓会について改めて意識し、同窓会の一員になったことを感じてもらうことも良い機会になったと思います。

卒業後は、同期会で級友と親交を深めて頂くために同窓会支援制度を発足させ、20代に開催される同期会にささやかでは有りますが、同窓会から支援金を補助することとなりました。また、その時の同期会の様子を記事として送って頂き、天守台に掲載して参りたいと考えております。

20代の若い世代の皆様にはぜひご活用頂戴たく思っております。

30代の同窓生の皆様には、40代になって初めて総会・新年会の同窓会幹事として携わっていただいたこれまでとは違い、10年早く副幹事として携わって参らうこととなりました。

卒業時、20代、そして30代と切れ目なく同窓会に関わることが実現します。

若年層の参加意識が少しでも向上することに繋がればと考え施策を実現させました。

また、同窓会事務局体制を今まで以上に充実させ、ホームページもより見やすく改良致しました。

平素の常任理事活動を活性化させるために、全学年における常任理事複数体制の確立も目指しております。

幸いなことに大きな出費を伴う同窓会事業は既に創立120周年時に完了しており、今後は地道に少しずつ改革して同窓会の足腰を強くし、将来の大きな発展に繋がる施策を着実に推進して参りたく考えております。

小松同窓会は素晴らしいメンバーとエネルギーを持った県下トップクラスの同窓会です。それを更に発展させることが私の願いです。同窓生の皆様の変わらぬご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 兄・佐々木守のこと

「記念館」佐々木守コーナー」開設によせて

佐々木 均(高18回)

高校7回卒業の兄・佐々木守は平成18年2月に69歳で亡くなりましたが、幼少の頃から文学に親しみ、今で言うエンタメの世界に魅せられていたようです。

高校時代には文芸部に所属し、同級生の松田章一氏ら幾多の多才な知己を得て、スライド映画や演劇作品など青春を題材にした創作活動に取り組み、小松高校文芸部の一時代を築きました。

大学進学と同時に東京人になった兄は、高校18回で12歳年下の私にとっては父親以上に頑固で近寄りたいた存在でしたが、帰省のお土産は必ず一冊の本でした。吉野源三郎の「君たちはどう生きるか」は今も大切にしています。

69歳という長くはない兄の物書き人生でしたが、生涯にわたりヒューマニズムあふれる作品を書き続けることができたのは、兄にとってまぶしく輝いた戦後民主主義を盟友たちとともに謳歌した小松高校時代があったからと思えてなりません。それは、飽くことなき物質文明、進化し続ける技術革新社会へのアンチテーゼをメディアに放ち続けた痛快な一生だったと思います。

このたび、兄が書いたラジオ番組、テレビドラマ脚本、ドキュメンタリー、構成台本、歌番組、バラエティ番組、映画、舞台の脚本、小説、漫画原作、そして石川県内5つの高校の校歌歌詞など2500本以上の作品の一端を、母校の記念館に展示していただくことになり大変うれしく存じます。ご来館の皆様さまに、兄が伝えたかった、変わりゆく戦後民主主義の本質を求め闘い続けた佐々木守の世界を感じていただければ幸いです。



### 第1回小松同窓会青雲賞贈呈式 常任理事任命式

日 時 ● 令和3年3月3日(水) 9:00~9:20  
 担当副会長 ● 新道副会長  
 出 席 ● 和田会長、新道副会長、山田副会長、山本副会長  
 表彰者 ● 市本遼太郎、上野一志、堂前季良、江守真由子  
 73回常任理事 ● 岸 洋介、小倉斗碧



#### 『小松同窓会青雲賞』表彰者について

##### ● 表彰対象

卒業予定者のうち、次のいずれかに該当する生徒の中から2名程度を選考。

- ① 校是である「文武両道」を実現し、学校生活全般にわたり他の模範となった生徒
- ② 部や生徒会の発展に顕著な成果を挙げ、学校の活性化に多大な貢献をした生徒
- ③ ボランティアなど社会活動で顕著な活動実績を残した生徒
- ④ その他、特筆すべき成果を挙げ、表彰に値すると認められる生徒

##### ● 表彰者(4名)

- 31H 市本遼太郎(いちもと りょうたろう) ①+②
- 31H 上野 一志(うえの かずし) ①+②
- 31H 堂前 季良(どうまえ きら) ①+②
- 38H 江守真由子(えもり まゆこ) ①+④



### 同窓会支援制度

対 象 ● 20歳代同窓会会員  
 金 額 ● 1回2万円  
 支援回数 ● 2回上限  
 報 告 ● 支援制度報告書にて、  
 写真、内容報告いただき  
 天守台委員会に報告

#### 1. 設立の趣旨

若年層の同窓生の同窓会への参画意識を少しでも高めるために、経済的に余裕がなく、援助を必要とすると思われる、20歳代の学年別同窓会開催時について小松同窓会から支援をする。

#### 2. 制度の概要

##### (1) 開催補助金の支援年齢条件

卒業後、20歳代までの同期同窓会について、2回を上限として1回につき、2万円を支援する。

##### (2) 開催補助金支出の条件

- ・ 学年全体の同期同窓会であること
- ・ 参加予定対象者数が50名以上であること
- ・ 代表申請者が、学年常任理事であること
- ・ 「小松同窓会 回期会支援事前申請書」と事後の「小松同窓会 回期会開催報告書」を事務局に提出すること

### 令和2年度 小松同窓会 [会計決算書]

収入額.....3,894,598円  
 支出額.....2,867,946円  
 翌年度繰越額.....1,026,652円  
 (単位:円)

#### ◆収入の部

科 目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘 要
会 費	3,130,000	3,130,000	0	令和元年度卒業生 313人×10,000円
繰 越 金	624,370	624,370	0	
同窓会運営基金	800,000	0	-800,000	
雑 収 入	125,630	140,228	14,598	令和元年度卒業生記念館等管理費、預金利息等
計	4,680,000	3,894,598	-785,402	

#### ◆支出の部

科 目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	摘 要
総 会 費	120,000	0	120,000	
卒業記念品	300,000	278,960	21,040	令和2年度卒業生 卒業記念メダル
通信事務費	210,000	25,409	184,591	総会・新年会、理事会開催案内等
渉 外 費	170,000	116,185	53,815	事務局電話料、高校野球新聞広告料等
業務委託料	1,600,000	1,301,880	298,120	事務局業務年間委託料、ホームページリニューアル
会報事業費	400,000	168,203	231,797	会報「天守台」第60号印刷代等
記念館事業費	480,000	57,287	422,713	ホームスクールカミングデー開催経費
記念館管理費	200,000	200,000	0	令和2年度分記念館管理費積立
会合事業費	300,000	58,845	241,155	理事会、幹事会開催経費等
小松同窓会文庫事業費	400,000	169,985	230,015	小松同窓会文庫整備費
一般事業費	220,000	211,192	8,808	プリンター、インク等事務用品購入代
雑 費	100,000	100,000	0	役員香典・生花代
予 備 費	180,000	180,000	0	コロナ用インナーマスク購入費等
計	4,680,000	2,867,946	1,812,054	

### 令和2年度 全国大会出場



中川前校長、卓球部顧問 江尻教諭と

#### 祝 出場おめでとう! ガンバレ!

「令和2年度 第48回全国高等学校選抜卓球大会」  
(3月25日~ 三重県津市)

21H 尾北 愛莉

「2020年度 全国高等学校ゴルフ選手権春季大会  
第41回個人の部」  
(3月22日~ 兵庫県三木市)

24H 能美 りのん

生徒会

進路指導課より

「昨年度の入試の振り返り」と  
「本校の進路指導方針」

2021(令和3)年度、センター試験に替わるものとし、大学入学共通テストが行われました。これまでの知識・技能重視のテストから、思考力重視のテストへと変わりました。思考力重視、読解量・情報量が多くなることから、センター試験に比べ難化が予想されましたが、入試初年度ということもあってか、正答しやすい問題も多く、前年度のセンター試験とほぼ変わらない平均点でした。共通テスト後の各大学の個別試験においては、既卒生の減少に加え、新型コロナウイルスの影響もあり、国公立大学、私立大学ともに全体として志願者を減らしました。

本校では、約2ヶ月の学校休校の影響を受けた生徒が多く、大学入学共通テストにおいて目標とする点数に届かず、全体として、前年に比べ、平均点を大きく下げることになりましたが、個別試験に向けた生徒の取り組みには、志望校合格へのひたむきさが感じられ、厳しい判定から合格を勝ち取った生徒も多くいました。

21年度入試結果ですが、東京大学3名、京都大学3名、東京工業大学3名を含む難関10大学に49名が合格、国公立大学には229名が合格しました。また、私立大学は、早稲田大学4名、慶應義塾大学4名、東京理科大学5名など、延べ609名が合格しました。私立大学に易化の傾向が見られ、合格者も例年に比べ、増加しています。前段で述べた全国的な志願者の減少が合格に反映されていると思われまます。国公立大学志願者の割合が非常に高いのは例年通りです。本校の校是である「文武両道」「自主自律」を体現し、最後の最後まで努力し続けた生徒で、栄冠を勝ち取った生徒も数多く見受けられました。年度が変わり、志望校実現に向け、始業前や放課後にも時間を惜しんで学習に励む3年生の姿が見られます。「現役で最高の志望実現率」を図るのは勿論ですが、第一志望を貫く強靱な精神力を備えた生徒の育成にも努めていきます。

本校の学習・進路指導の方針は「自ら考え求める学習」と「自ら切り拓く進路」を柱に、次の大学や社会においても学び続け、更なる飛躍を成し遂げる人間力を育成するものです。

今後も全教職員一丸となって、全力で生徒の進路実現を支援してまいります。

最近3か年の大学合格者数 (浪人生を含む)

大学名	R3	R2	R1	大学名	R3	R2	R1	大学名	R3	R2	R1
北海道大学	8	6	6	横浜国立大学	1	1	0	青山学院大学	4	1	3
東北大学	6	8	12	新潟大学	11	11	15	慶応義塾大学	4	2	4
東京大学	3	3	3	富山大学	26	26	17	上智大学	2	4	2
東京工業大学	3	0	3	金沢大学	54	64	65	中央大学	5	1	1
一橋大学	0	1	0	福井大学	8	6	16	東京理科大学	5	14	12
名古屋大学	4	4	3	信州大学	3	6	4	法政大学	9	3	10
京都大学	3	4	7	静岡大学	0	1	1	明治大学	7	8	3
大阪大学	14	16	13	名古屋工業大学	2	2	1	立教大学	5	3	3
神戸大学	5	12	15	奈良女子大学	1	0	5	早稲田大学	4	5	6
九州大学	3	2	1	岡山大学	1	1	0	同志社大学	43	37	31
10大学合計	49	56	63	広島大学	3	5	5	立命館大学	56	61	58
国立大学医学科	7	7	5	大阪府立大学	1	3	2	関西大学	24	17	23
筑波大学	5	0	0	大阪市立大学	0	0	1	関西学院大学	19	13	8
千葉大学	3	1	3	その他国公立大学	60	42	43	その他私立大学	422	332	245
東京外国語大学	1	0	0	国公立大学合計	229	225	242	私立大学合計	609	501	409
お茶の水女子大学	0	0	1								

「天守台」編集委員会

- 委員長 東次郎 (高22回)
- 副委員長 山口和博 (高34回)
- 委員 野田洋子 (高12回)
- 前口百合子 (高12回)
- 宮浦誠治 (高33回)
- 細川千鶴 (高35回)
- 馬場智子 (教頭)
- 学校職員 松田知隆 (高30回)

編集室だより

ワクチン接種も始まりコロナ対策が進んで心中ホッとしている昨今です。今号も多士済々の方々からご寄稿頂き有難うございました。コロナ禍の中多くの寄稿者及び天守台関係者の皆様のお陰で今号を発行する事ができました事に感謝します。



[ 同窓会本部 ] TEL: 0761-21-6330 メール: tensyudai@gmail.com